

中国内陸農村訪問調査報告（6）

祁 建民 ・ 閻 美芳

The Report of House-to-House Investigation in Rural Community of Inland China (6)

Qi Jianmin ・ Yan Meifang

概 要

本稿は、2014年9月に筆者をはじめとする中国農村研究者が中国河北省S県W村とQ県Z村で実施した聞き取り調査の報告書の一部である。老農民・幹部経験者・村落婦人・農村教師など農村の諸階層から聞き取り調査を行い、1940年前後を起点とする70年間の農村社会経済変革の歴史的過程を追跡した。その際に、農民との質問応答録を原則としてそのまま収録することによって、村落社会経済の多様な面に照明を当て、村民の視点に立った家族社会史・村落経済史の再構成を目指した。

キーワード：中国内陸農村、個人史、家族関係

2014年9月に、筆者をはじめとする中国農村研究者は、中国河北省S県W村で聞き取り調査を実施した。また、今回の訪問は、W村の他に、Q県Z村（1940年代日本側によって調査を実施された村）を訪問した。以上の訪問調査は、河北大学華北研究センターの協力を得て、日中両国の共同研究として実施した。なお、本稿でも『中国内陸農村訪問調査報告（5）』と同様に、プライバシーの保護に配慮して村民の実名の表記は極力避けるようにした。

このプロジェクトは、2012年より4年間の予定で開始された平成24年度基盤研究（C）「水と権力—中国の水利問題からオリエンタル・ディスポティズムの再検証—」（研究代表者 祁 建民）及び2013年より5年間の予定で開始された、平成25年度基盤研究（B）（海外学術調査）「華北農村訪問調査による近現代中国農村社会経済史像の再構築」（研究代表者 弁納オー・金沢大学教授）によって実施している。

一、2014年9月6日午前（一）

被訪問者：WSX（村民委員会委員）

場 所：W村新民居管理委員会事務室

村の現状：現在人口4100人くらい、世帯数910である。産業：農業（小麦、トウモロコシの栽培を中心、1畝の生産高は、小麦1000余斤、トウモロコシ1200余斤）、プラスチック材料の

回収・加工業。土地面積:3080 畝くらい。裕さはこのあたりの村の中で中レベルである。村の中に、「新民居」団地を造り、440 世帯入居可、古い邸宅敷地を村に返還し、団地のマンションを購入し、1 平方メートルに 1145 元である。

二、2014 年 9 月 07 年午前 (二)

被訪問者：Z J B (村民)、L S S (村民、元民兵連長)

場 所：W 村新民居工程小区事務室

Z J B、1937 年 7 月 2 日(旧暦)生まれ。今年で 78 歳。今は奥さんと二人暮らしであるが、息子 3 人、娘一人います。中では、長男と二男はプラスチックの加工業をやっています。長男は 57 歳、二男は 48 歳、娘は 52 歳。

妻 M S Q 1936 年生まれ、79 歳 ここから 3、4 里に離れた西亭郷から嫁いできた。

問 小学校はどこで勉強になったのですか？

答 この村の小学校で勉強した。王各庄小学校です。7 歳に学校に行きました。1944 年のことです。

問 中学校は？

答 中学校は保定 2 中で教育を受けました。私は子供の時から社会活動に積極的に参加し、小学校の時に、児童団の団長だった。

問 中学校を卒業してから高校に行きましたか？

答 いいえ、中学校を卒業してからすぐ保定機床工場で働くようになった。定年までそこにつとめました。

問 いつ定年になったの？

答 1997 年に定年になって村に戻った。年取った親の面倒をみるために。

問 解放前に、あなたの家にはどのぐらい農地があった？

答 23 畝。なぜこんなに多いかといいますと、父の兄で、私の伯父さんが若い時からハルビンに行きまして、家は伯父さん一家の農地も耕していたからです。

問 土地改革の時に、どの成分を区分したの？

答 上中農です。当時家の物を一回奪われていったことがあったが、その後また返してくれた。正直言って当時はとっても貧しかったので、物を奪われると言っても、家にはたいして価値のある物がなかった。

問 ここは革命老区(根拠地)ですか？

答 そうです。

問 農地改革はいつ頃やりました？

答 1947 年の冬です。

問 抗日戦争の時、ここは活発な地域だったの？

答 そうです。ここからすこし離れたところに曲逆河が流れているが、その河に方順橋があり、その北側に日本軍の大砲楼があった。

問 そこに日本軍何人ぐらいいました？

答 日本軍はそんなに多くない。一人か、二人ほど。ほかは全部「偽軍」で、偽軍とは日本軍に帰順した中国人軍隊で、よく日本人の威信を借りて悪事をしていた。

問 日本軍は怖い存在でした？

答 そうでもないよ。実は私は日本軍官に馬を散歩してくれと言われたことがある。日本軍は子供に会うと、お菓子などをくれた。日本軍も子供が好きだったみたい。

問 日本軍はW村の人を殺したことがありますか？

答 この村の人を殺したことがあるが、この村で殺したのではない。私が小学校3年生の頃、共産党の地下組織がこの村の齊連科、楊善、龍玉明（村の治安主任）は夜中に連れて行かれた。噂では、齊連科の家が豊かだったので、お金を払って釈放してもらったそうです。楊善と龍玉明は石家荘で殺されたそうです。具体的な場所は村人が知らない。

問 では、なぜこの三人が殺されたの？

答 あのとときは我々がまだ子供だったので、詳細は分からないが、噂では龍玉明は日本軍のもとで、執保主任をやったことがあったからだそうです。

問 では、日本軍はこの村の人を殺したことがあるの？

答 村の年寄りの話では、私の父親と何人かの村人が近くの方順橋に連れていかれて、そこで殺されそうになった。ところが、日本軍の刀が途中で折れたので、それは日本人にとって縁起が悪いことらしく、やめたらしい。おかげで私の父親と村人が命を拾った。

問 それはいつの出来事ですか？

答 1941、1942年頃の出来事です。

問 当時、日本軍はこの村に来て、「抓夫」（若者を連れて無理やり軍隊に行かせる）ことはしなかった？

答 やったことがあるが、直ぐ村に戻してくれたそうです。

問 日本軍がこの村に来て、火をつけたりした？

答 そのようなことはしなかった。当時、この村に共産党の地下組織と「民兵」があったから。

問 昼間が日本軍、夜は共産党と民兵に対処し、当時の村長は大変だったね。

答 そうです。当時の村長は「両面派」（両方にいい顔をする人）でした。ただ、当時日本軍が村に来る回数が少なかった。そもそも日本軍がたいしていなかったから。「偽軍」が良く来ていた。当時、八路軍の地下党組織に射殺された人の中に、梁順学、張更生もいた。

問 このふたりはなぜ殺された？日本軍の偽軍だったの？

答 このふたりは村で悪い事をしていたから。人の妻を奪ったりして。

問 この村でいつ土地改革やったの？

答 1947年の冬。

問 土地改革の時、工作组は上から来たの？

答 ええ、当時、張歩清という人は南の方からきたの。この地域の人ではなかった。

問 当時土地が一番多い村人にはどのぐらい土地を持っていた？

答 唐大海の家に土地が一番多かった。家に10人ぐらいの長工を雇っていた。

問 当時、長工を雇う人が多かったの？

答 多かった。3人、2人の長工を雇う人もいた。家も長工1人を雇っていた。土地が多くて子供が小さかったから。

問 土地改革の時、この村では射殺された人がいた？

答 ない。噂では、沈自勤は国民党の人だったけれども、それでも殺されたなかった。共産党の地下組織の人の斡旋で。この人は当時共産党を見下っていたため、国民党に入ったらしい。だが、教養のある人で、字がきれいです。

問 抗日戦争の時、共産党の軍隊に入った人も多かった？

答 多かった。私の兄は1946年軍隊に入って、抗美援朝にも参加した。朝鮮に8年間もいた。

問 土地改革の時に、殴られた人がいた？

答 いた。例えば、周老静は日本軍がいた時に、村の保長で 20 畝の土地を持っていた。彼はどちらかという日本軍に靡いていたので、土地改革の時に殴られた。周老静は保長だったとき、日本軍の偽軍が若い女性二人欲しいと言うと、彼がその言いなりになって村の若い女性を連れていたらしい。その仕返しもあるって、土地改革の時殴られた。

問 他に殴られた人がいた？

答 例えば、劉老憲、彼の場合は、土地が多くて、20、30 畝あった。偽軍の保長をやったことがあった。

問 土地改革で大きく変わった。

答 家の場合、却って驢馬一頭増やしていった。家のロバを連れて行って、帰った時に 2 匹として返してくれた。また、富農らの家から集まった物の一部は私の家に保存していたので、その詳細も分かっていた。唐大海の家から集まった物が一番多かった？

問 なぜあなたの家にこれらの物を置いたの？

答 当時、村にはこれらの物を置く場所がなくて、何人かのうちに暫定的に置いていた。

問 あなたの家にこれらの物を置いたのは、おそらくあなたの兄が解放軍に入ったこととの関係あるでしょう。

答 たぶんそうでしょう。私は三番目ですが、二番目の兄が解放軍に入ったから。

問 あなたの伯父さんはいつ村に戻ったか？

答 彼は民国 9 年大旱魃の時、ハルビンに行った。土地改革後に戻った。

問 この村集団化は何時から行った？

答 初級合作社は 1955 年から、高級合作社は 1956、1957 年から始めた。1954 年互助組を組織し、我々 5 世帯で一つの互助組を作った。その時、地主・富農が入社したがない。

問 大躍進は？

答 この村でも大製鋼鉄運動も行った。その時 13 の生産隊があった。一つの実験隊は一つの大食堂を作った。

L S S

1936 年生まれ、妻 Z F H、ここから 12 里離れた北城村より嫁いできた、1941 年生まれ。息子 5 年、娘一人である。

問 小学校はどこで勉強になったのですか？

答 この村の小学校で勉強した。私の家は貧しいので、土地 2 畝しか持たない（土地改革で 3 畝を貰った、合わせて 5 畝になった）、10 歳に学校に行きました、6 年間勉強になった。

問 家族は

答 父と母は私が 8、9 歳の時亡くなった。兄弟 3 人で、一番上の兄は 1946 年入隊した。

問 貴方は

答 私は 1955 年、高等小学校の時に、入隊した。人民解放軍 69 軍に所属し、場所は方順橋で、3 年間入隊し、その後村に戻った。三か月待って、保定にある省第 4 建築会社に就職した。1 年後通用機械工場に転職し、1 年後の 1962 年に党の呼びかけに答え、先頭に立って村に戻った。村の民兵連長に就任して、45 年間をやった。

問 その時、民兵は看青を担当したか。

答 はい。13 の生産隊それぞれ一人派遣し、13、4 人が看青を行った。昼夜 24 時間で見張った。

泥棒を捕えると、遊街（街に引き回す）をさせ、労働点数を差し引かない。泥棒は殆ど本村の人である。

問 その時民兵は何人くらいいた。

答 基幹民兵 300 人くらい、民兵連があった。普通民兵も 300 人くらい。

問 土地改革は

答 土地改革の時、一時に組織したが、暫く解散した。解散の時、農産物の生産量は高かった。

問 大躍進の時、村で水利施設を建設したか。

答 曲逆河で大きな水門を作った。水道も掘った。その後本村の畑は殆ど灌漑できた。1965 年から稲を栽培し始まった。

問 昔、この村の主な農産物は何か。

答 小麦、トウモロコシ、粟、高粱、豆、綿花など。

問 四清運動の時、何か出来事があったか。

答 県供销社の主任が帳簿を点検しにきた、不正を調べた。幹部が蒸籠の販売金を横領した。山の向こう側にも王各庄があり、その村は蒸籠を製造・販売していた。しかし、その得意先はお金をこの村に送金した。この村の幹部はその金を横領した。結局、王 RB（調解委員）、周 LL（支部長）は党籍を剥脱され、李 HZ（李 ZM）は留党察看（党から除名されずに要観察党員として留まっていること）という処分を受けた。何年後お金を返送して、党籍を復活された。この村、土地改革時にも貧農団を組織して、「搬石頭」を行った。

問 小さい時、日本語を学んだことはあったか。

答（周）小学校の時、日本語を学んだ。すべて忘れた。その時、日本兵が馬に乗って来た。日本兵は私に馬をゆっくり歩かせた。そして飴、ビスケットをやった。

答（梁）日本兵がやってきて、村の人は殆ど逃れた。八路軍の支部長楊庚寅もみんなと一緒に逃れた。拳銃も捨てた。みんなが恐れた。

その時、この村は両面政権があった。昼間に傀儡政権の保長が日本人に対処し、夜は八路軍に対処した。村の楊老万は日本人が来た時お湯を沸かし、接待した。村の八路軍の小隊（遊撃隊）があった。隊長は周福全、張立国である。夜は鉄道を破壊した。このあたりの指導者は聶榮臻で、日本軍が降伏した時、日本軍が自ら砲楼を焼き払い、県城に戻った。

三、2014 年 9 月 8 日午後

被訪問者：W W L（元小学校校長）

場所：W 村新民居工程小区庭

W W L、1939 年生まれ、今年 76 歳 妻 X Y Z W 村から 7、8 里離れた大王庄から嫁いできた。父親 W L Z、母親 Z J Y（東閭庄から嫁いできた）。

問 どこで小学校に入ったのですか

答 W 村小学校 6 年制の小学校なので、高小と言われた。1949 か 1950 年ころ小学校に行きました。私が 11 歳の時です。高小を卒業したあと、北城中学校（村から 12 里離れたところ）に入学しました

問 高校は？

答 入学試験を突破して、保定市にある保定列車電業局学校に行きました。ここは専門学校です。

そこで2年ちょっといました。卒業した後、保定市の農場につとめました。機床を鑄造する仕事でした。

問 高校を卒業した後、直ぐに村に戻って小学校の先生になったのではなかったのよね？

答 ええ、しばらく保定で働きました。その後、3年困難の時期に国家の「農村に帰ろう」政策によって、半ば無理やり都市の戸籍が回収され、村に戻ったわけです。私は1960年から小学校の先生になった。最初は民辦教師でした。最初は隣村の高玉補小学校で3年間、責任者を務めました。大体1972年から74年までです。その後村に戻り、王各庄公社にもどり、業務辦事員になった。そこで7～8年間勤めました。その後、東閭庄小学校の責任者を勤め、5年後に村に戻った。1985年前後だと思います。その後、王各庄小学校の教導主任を2年間勤めたあと、王各庄小学校の校長になった。2000年定年になるまでずっとそこの校長でした。

問 解放前、家に土地何畝あった？

答 21畝以上あった。

問 じゃ、土地改革の時に、どのような成分になったの？

答 中農。なぜかというと、家は確かに土地が多かったが、子供の数も多かったの。私は7人兄弟で、男の子6人、女の子1人。土地が多く持っても、子供が小さいこともあり、貧しかった。それにこの21畝の土地のなかに、伯父の家の土地も含まれている。

問 伯父一家は？

答 伯父一家は私が生まれる前にハルピンに「闖关东」に行きました。

問 今でもハルピンにいますか？

答 伯父はずいぶん昔亡くなった。伯父夫婦に娘しか生まれなかったの、その後娘達も病死したりして、今絶戸になった。ハルピンに誰もいない

問 村の民辦教師はその時、工分は一日いくらでした？

答 10工分。お金に換算すると、2角ぐらい。そのほか、毎月3元の補助が出ていました。

問 当時の給料のいくらぐらいかは、覚えていますか？

答 1970年に正式に公辦教員になり、月26元でした。その後、29.5元に調整し、1982年になって、給料は大幅に上がりました。1986年に、職稱の評定があり、私は小学校高級教師になり、給料は毎月130元以上になりました。

問 小学校で教えた時、ずっとこの村に住んでいました？

答 いいえ、王各庄村で教える時は村に住んでいたが、遠いところは住み込みで教えました。遠いところは当然食事の費用に関する補助が出された。

問 互助組のとき、あなたの家は互助組に加入した？

答 加入したよ。

問 当時、何軒で一つの互助組だった？

答 10軒前後かな。

問 だれが互助組の組長か、覚えているか？

答 いいえ、はっきり覚えていない。

問 互助組は途中で解散したりした？

答 したよ。解散期間は1年～2年間だったかな。その後また再組織化され、合作社に加入するようになった。

問 当時は13の生産隊があると聞いたね。あなたの家はどの生産隊だった？

答 家は1隊。

問 大躍進の時代、この村も大食堂があった？

答 あったよ。生産隊ごとに。

問 大食堂でお腹いっぱい食べることができた？

答 いいえ。

問 お腹いっぱい食べれない時、どうしました？

答 最初は白い芋をたべ、そのあと、トウモロコシの芯をたべ、その後、ヤマイモをスライスして、干して粉にして煮たりしてたべた。当時浮腫という病気にかかる人が多くて、死者も多く出た。当時の人の寿命は 50 歳前後だった

問 この村には四清の時、工作隊がきた？

答 この村には来なかった。この村から工作隊の隊員として他地域に派遣される人はいた。李冬山、劉尚志など、5、6 人は易県に派遣された。

問 これらの人は貧農だったの？

答 貧農で読み書きができる人でした。

問 李冬山、劉尚志らはこの村の幹部だったの？

答 いいえ、幹部ではなかった。普通の群衆だった。

問 四清の時、村では村の大隊は査帳を受けました？

答 私は隊にいないので、良く分からなかった。（隣にいる L S S ・1936 年生まれ、次のように補足した。当時私は生産隊にいたので、このことは知っているよ。公社から滕という主任がきて、査帳をしたら、村の幹部 Z L L さんたち 3 人が、村の副業として売れた豚、牛を駆使する時の革のひもの費用、確かにあれば商売先の内モンゴルが間違っ二度も購入金を村に振り込まれたのよね。村の幹部は二度目に振り込まれたお金をこっそり 3 人で分けてしまったので、査帳ではれちゃった。もちろんこれら幹部個人のポケットに入ったお金は後になってちゃんと払い戻されたけれど）

問 文革の時、この村でも幾つかの派閥に分かれた？

答 そうよ。造反派と紅衛兵派に分かれた。造反派は李冬山、紅衛兵派は張継堂だった。

問 この二つの派閥はどう違ったか？

答 紅衛兵派は村の幹部を支持していた。主に黒五類を批斗していた。一方の造反派は幹部を批斗していた。

問 この村に黒五類になったひとは何人ぐらい？地主いたの？

答 5、6 人ぐらい。地主いなかった。富農いた。そして、村の作物などを盗んでいるのを捕まえられ、壊分子として処分されるひともいた

問 この村はいつごろ請負制度が実施されたの？

答 1980 年以降。

問 当時から各家に分配されたの？それとも生産隊単位で分配されたの？

答 当時から各家に分配された。ただ、生産隊がしばらく作動していた。各生産隊に小組長がいた。

問 請負制度が実施されてから、村で大きな土地調整をしたことがありますか？

答 2 回ぐらいあった。土地を個人に分配され、ふたを開けると、土地に質のいい土地とどうでない土地があるので、そこでもめ事があった。その時に生産隊に土地の再分配を要求した人がいた。2 回目の土地調整の時、村が各生産隊の土地の平均も図った。わが 1 隊も、土地がほかの生産隊より多いとのことで、一部他の生産隊に分けられた。

問 請負制度が実施されてから、村に机动地（共有地）があった？

答 あった、100 畝前後。果樹園とかのような土地があった。

問 これらの土地は今でもあるの？

答 ずいぶん昔なくなつたよ。新たに子供が生まれる人達は土地が無いからと村に訴え、そのたびに分配され、なくなりました。

問 今私達がいる新居（5階建ての住宅地）はもともと耕作地だった？

答 耕作地だった。

問 あなたは今新居に住んでいますが、村にある農家屋敷は村に渡したの？

答 いいえ、まだ私個人のもの。今住んでいないので、知り合いに貸して、住ませているの。

問 ここに引っ越して何年？

答 2年になった。

問 やはり新居のほうが利便性いいですか？

答 ええ、新居のほうが衛生の面でいいから、夏は蚊がすくない。冬は地暖があるので、暖かい。ご飯を作る時は電気かガスを使っている。特に女房が5年前脳梗塞で倒れ、こっちの便所のほうが使い勝手がいい。

問 今でも農地はあるの？

答 ええ、今でも5畝の土地があり、親戚に貸しているの。毎年1000斤の小麦、200斤のトウモロコシは渡してくれる。

問 今息子のだれかと一緒に住んでいますか？

答 長男が同じ建物の2階を買い、私達老夫婦は1階に住んでいる。食事は別々ですが、何かある時にすぐ対応してくれる。

問 今医療保険に入っていますか？

答 入っています。保険費用は毎年70元。病気にかかる時、75%負担してくれる。ただ、この75%は、かかった費用が一定の金額に達してからの話。例えば、村の医療機関で治療を受ける場合、100元を達すると、100元を超えた分の75%は負担してくれる。それに対して、県か県以下の医療機関で治療を受ける場合、300元を超える必要があり、市の医療機関の場合、1500元を超える必要があり、省の医療機関の場合、3000元を超える場合がある。ただ、医療保険制度が実施されてから、公の医療機関が扱っている薬の値段があがり、同じ薬でも、村の薬局の場合、個人の医師のところでは19元の薬を、26円で売ったりして、結局農民が支払う金額はさほど減っていないような・・・。

問 村には年寄り年金もあるでしょう。

答 ある。年寄りは毎月55元もらえる。

問 小学校の先生だったので、定年後の年金もたくさんもらえているでしょう？

答 毎月2000元もらっている。ただ、これはほかの地域、例えば山東省などと比べると、決して高くない。2000年以降、小学校の先生の給料が大幅にアップされたが、私はその前に定年だったので、あまり恩恵を受けていない。

問 今子供たちは全員近くに住んでいますか？

答 長男はすぐ上の2階に住んでいますが、娘と二男は順平県の町に住んでいる。長男は村にて他の二人でプラスチックの加工工場を経営している。二男は建築業のエンジニアの資格を持っているが、個人で仕事をあっせんしている。

問 この村でいつ頃からプラスチックの加工が主要な副業になったの？

答 1980年代半ばころか、それ以降。特に1990年代に大きな発展を見せた。今加工の工場を持っている家は100軒ぐらい、その流通などを扱う家までカウントすると、300軒ぐらいの家がプラスチック産業にかかわっている。

問 最近国家が環境に厳しい政策を打ち出してから、村のプラスチックの工場も減ったでしょう

答 ええ、その通りです。

四、2014年9月8日午前

被訪問者：L X M（T Z村村長）

場 所：保定市Q县Z村村民委员会弁公室（Q县婦幼保健院とZ T鎮政府の幹部同席）

問 Z村にどのぐらい人口がありますか？

答 自然村としてのZ村は2432戸、7千人以上あります。行政村としてのZ村は人口が1万6千人以上あり、Z村のほかに、Z店、Z屯もその一部となっています。この村はかつて鞭炮（爆竹）づくりが有名でした。

問 鞭炮（爆竹）づくりはいつごろから始まったの？

答 抗日戦争の時、日本人が村にいたときから。当時はこっそりやっていた。日本軍が村にいたから。この村は当時、日本人の大砲を収める大砲楼が5つもありました。

問 このような状況でこっそり鞭炮（爆竹）づくりをして怖くなかった？

答 この村は大昔「黒風口」と呼ばれ、気候が荒いだけでなく、人々の気性が荒いという意味でもあったようです。昔ダムがなくて、よく水害に遭っていた。水害があるたびに、人々が難民として、殺人犯などのような気性の荒い人が誰もいなかった村に来て、住みつく人が多いと言われてきた。

問 この村はいつ頃から村という名前になったの？

答 清の時代、この村の出身で、保定市で役人をする人がいて、この人の名前はZ Dでした。Z Dは用事で保定市に来る出身地の村人を誰でも厚くもてなし、彼がなくなった後、人々が彼を記念するために、この村の名前をZ Dに変えました。それでも、当時の人が、「宁肯绕道走，不走黒風口」（遠回りをして、黒風口あたりを避けていきましょう）という言い回しがあったぐらい、この村には気性の荒い人が住んでいたらしい。

問 日本軍の大砲楼まだありますか？

答 ない、文革時代の時に壊された。写真も残っていない。この村には抗日の歴史が長く、農民の抗日に関する「地道戦」という有名な映画の幾つかのシーンが実はこの村で撮影したの。

問 この村にも「地道」（地下に掘ったトンネル）があったの？

答 あった。地道は「地道戦」で有名になって、今観光地になった冉庄だけではなく、この辺の多くの村にあった。

問 日本人がいた時から鞭炮（爆竹）づくりをしていたって、では、鞭炮（爆竹）づくりの材料がどこから仕入れた？

答 紙と火薬は全部自分たちで作っていた。

問 火薬は軍事武器にもなるから、日本軍にばれると大変ではないの？

答 地下でこっそり作っていた。日本軍にばれないように。あれ以来、ずっと鞭炮（爆竹）づくりが手工業として残っていました。人民公社、生産隊の時も、人々が個人の家で作っていた。利益があったから。ただ、危険性の高い作業でもあった。鞭炮（爆竹）づくりで大金持ちになった家もあったが、爆発などで亡くなった人もいっぱいいた。1988年政府が取り締まりの命令を出すまで、毎年必ずと言っていいほど、何人かは鞭炮（爆竹）づくりで亡くなった。

問 取り締まりは厳しかった？

答 厳しかった。捕まえられると、3年～1年間は監獄です。鞭炮（爆竹）づくりができなくなっ

てから、この村は県政府と鎮政府の指示のもと、スイカ、甜瓜などを作るようになった。それだけでなく、150 畝のむらの土地で 2008 年に「冀中瓜果批发市场」(河北中部瓜果の卸売市場)を作り、村に新たな発展チャンスをもたらした。

問 スイカ作りなどで結構収入が得られるの？

答 ええ、平均して 1 人あたり 1 万円の収入が得られる。卸売市場にきてスイカなどをとりに来る運送車両は多い時 1 日に 400 台以上に達する時もある。近くは徐水、遠くは新疆まで運んで行く。それだけでなく、卸売市場ができることで、市場の中にレストランができたりして、そこで経営をするひとにも出て、新たな収入源となった。

問 この村にどのぐらいの農地があるの？

答 7 千 200 畝ぐらい。今 9 割は瓜を作っています。

問 主食の小麦粉は？

答 鎮政府の近くに小麦粉を加工する工場があり、村人は必要な分だけそこから購入するようにしています。この村の甜瓜はとっても有名で、北京農産物展覧会で 1 等賞をもらったこともある。

問 この村に昔からスイカなどを作る伝統があったの？

答 ええ、この村は砂地の土地が多く、スイカづくりに適しているの。

問 瓜類は年に何回作れるの？

答 年に 2 回。瓜のほかになす、長めのインゲン豆なども作っている。ビニールハウスの大きさによっても違います

問 ビニールハウスも何種類あるの？

答 ええ、高さ 3 メートルのと、高さ 2 メートル、高さ 1 メートルのがある。高さ 4 メートルのものもある。この村には 40% は高さ 4 メートルの冷棚(冬に草であんだ布団のようなものをかけると、暖がとれて、年中野菜作りができるビニールハウスのこと)、60% は 3 メートルかそれ以下のビニールハウスです。

問 育苗の時、烧炕(ストーブをつけて暖をとる)必要がありますか？

答 2 月の育苗の時に、烧炕の(ストーブをつけて暖をとる)必要がある。

問 育苗とか、瓜づくりに専門的な技術の指導がありますか？

答 あります。毎年 2 回、河北農業大学の先生たちがきて、指導をしてくれる。

問 育苗は村で組織して共同してやっていますか？

答 いいえ、各自でやっています。各自の家で各自の育苗をしています。

問 瓜などの収穫物を売る時に共同作業がありますか？

答 いいえ、それも各自でやっています。市場には「經紀人」(売買を斡旋することを専門にする人)がいるので。

問 この村に經紀人が何人いますか？

答 とっても多い。100 人、200 人以上はある。皆電話で連絡がついているからとっても便利です。例えば、瓜などを購入したい人が「經紀人」に電話して、車両一台のスイカがあるかと連絡すると、「經紀人」は農家のビニールハウスに行って、あの 3 軒なら提供できると分かると、購入したい人を 3 軒の農家に連れて行って、それで商談が成り立つわけ。

問 ここにきて瓜を購入する人はどこの人が多いですか？

答 どこの人もいます。江西省と上海、浙江が多い。吉林、遼寧、黒龍江、太原、大同など、とにかく多くの地域に行きわたっています。

問 この村にはどの苗字が多い？

答 張と王が多い。張姓の人は二千人、王が千人以上、劉も千人以上かな。他には楊などの苗字

もある。

問 村には廟があるの？

答 現在四つの廟がある。三義廟、奶奶廟（観音廟）、玉皇廟（蚂蚱庙）、城隍廟です。

問 これらの廟は文革時代にも残っていた？

答 いいえ、文革時代は全部壊された。今あるのは全部最近再建したものだ。

問 この村に教会があったの？

答 教会がない。この村に信者がいるが、規模が小さい。周辺に信者の多い村には教会があるが、この村にはない。

問 生産隊の時、この村にどのぐらいの生産小組があった？

答 36の生産小組があった。1つの組に50軒から70、80軒があった。1、2、3、4生産小組は規模が大きく、人口は千人以上あった。村には4つのエリアに分かれて、一つのエリアに8つの生産小組があった。四つ目のエリアにはもうちょっと生産小組多かった。

問 こんな大きい規模の村だと、村の幹部も数多いでしょう。

答 党の委員と村の村民委員会、両方を合わせると9人。今の村には大学生村官が一人います。河北軽工業学院を卒業した女の子です。

問 この村に野菜の専門合作社がありますか？

答 ある。建輝農業專業合作社です。これは正式なもので、非正式な合作社も10以上あります。

問 正式と非正式とは？

答 正式な合作社というのは、県の農業局で登録してあるもので、非正式な合作社というのは、登録していないところです。（女性の副鎮長の補足：なぜこの村で県と鎮の指導で正式な合作社を作る必要があるかといいますと、当時この村には非正式な合作社が偽物の甜瓜の種を農民に売って、農民に被害をもたらした年があった。2006年のことです。非正式な合作社も農民に種と肥料を共同で提供しているから。此の事件を受けて、県と鎮が建輝農業合作社を作らせ、県の農業局の技術指導なども行っているようになった。瓜の種類で「女子紅」品種でしたっけ、全国人民大会堂に提供したらしい）

問 村は野菜卸売市場の賃貸費をどうやって管理しているの？

答 「招标」（入札）の方法で管理をしています。今は6万円の賃貸費を村に収まっている。入札した人は更に売買する双方から1斤あたり1分（0.01人民元）の手続き料を取っている。

問 この卸売市場はどうやって作られたの。建設費は誰が負担したの？

答 2008年につくられた。建設費用は鎮と県政府。

問 卸売市場が年間6万円の賃貸料を取るって、大した金額ではないよね？

答 ええ、ただ、私達は場所を提供するだけで、実際入札した人が地面のコンクリート化、卸売市場の建物などですでに個人的に30万元以上投入して赤字になっています。それで、入札した人に継続して管理させるようにしているの。（女性の鎮長の補足：この村で野菜卸売市場が作られても、農家や運送会社に認定してもらうまで、大変な努力が必要だった。人々は大通りでやりがっている。彼らを卸売市場に集まらせるのは一苦勞です。毎年の6月から8月、県の公安局、商業局、検察院などの公部門や鎮政府の責任者達がこの卸売市場の近くの道路の秩序維持に動員されています。今現在、卸売市場の近くの渋滞を緩和するために、西の方で市場を新たに作った）

問 解放前に、「小买卖」（零細な取引）をする人が多かったですか？

答 多かった。でも、だんだん鞭炮（爆竹）づくりに集約していった。

問 ビニールハウスを一つ作るのにいくらかかりますか？

答 2.5メートルの高さで、2.5メートルの広さのビニールハウスは1畝あたり1万5千元。

問 この村で農地の賃貸料金、今いくらぐらいですか？

答 1 畝あたり 1500 元。

問 この 1500 元は土地の使用料金だけでしょうか？

答 そう、土地への投入コストを入れると、1 畝あたり 3000 元ぐらい。それでもこの村に来て土地を賃貸する人が多い。砂地で土地の質がいいから。

問 毎年スイカを作って、連作の被害ないの？

答 今は嫁接の技術があるから、大丈夫です。

問 この村の土地の灌漑はどうしていますか？

答 全部井戸でやっています。村には 300 個ぐらいの井戸がある。これらの井戸は深いのは 140 メートルの深さがある。全部個人がお金を出して作った井戸です。1 個あたり 1 万元前後かかります。

問 飲用水はどうしていますか？

答 これも井戸です。一軒あたり 500 元を出して、足りない分は村政府が負担して井戸を 3 つ掘りました。いちばん深いのは 310 メートルです。今村人は水を飲む時電気代などの諸費用を一切払う必要はない。

問 今でも村に共有地がありますか？

答 ええ、100 畝の林場があります。まだ何 100 畝ある。

問 このような大きな村だと、卸売市場の賃貸収入のような限られた収入だと、結構大変でしょう

答 ええ、実はこの村の支出、新聞代などの雑用料金で毎年 15 万もあります。やりくりが大変です。

問 李書記も家で瓜づくりをしていますか？

答 ええ、でも、主に「經紀人」の仕事で忙しい。家の近くに自分の小さい市場があり、そこでやっています。でも、このような小さい市場は閉鎖させ、大きな卸売市場で斡旋していくのがこれからの趨勢です。